



屯田兵屋をそのまま移築・復元。音声ボタンを押すと家族の会話が出る。

## 本物の屯田兵屋で、当時の暮らしを実感

北区

とんでんきょうどしりょうかん

### 屯田郷土資料館

#### 西日本からの移住者たち

現在の北区屯田は、琴似、山鼻、新琴似に次いで最後に札幌に誕生した屯田兵の移住地であり、かつては篠路兵村と呼ばれていた。

屯田地区センターの1階にあるのが、この地域の歴史を学ぶことのできる屯田郷土資料館である。昭和63年(1988)に開設され、かつての一带の様子や移住者達の航路、兵村の暮らしなどを模型やパネル、農耕具などの実物資料で紹介している。

明治22年(1889)、徳島・和歌山・山口・福岡・熊本・福井・石川といういずれも暖国の地

から集まった士族とその家族220戸(1056人)が、運送船・相模丸に乗船して瀬戸内海を出航。小樽港に上陸し、手宮から琴似駅までは列車で、そこから徒歩で篠路兵村へたどり着く。村には木造平屋の兵屋が220戸用意されており、彼らは土地のほか寝具や家具、農耕具、種子などが与えられた。移住から3年間は扶助米、塩菜料が給与されるなど手厚い補助があったが、本州式の家屋は寒さが厳しく、一家の主が兵員として訓練に駆り出される間も、開墾を担った家族の苦労は計り知れない。大火や大水害にも見舞われ、72戸まで激減した時期もあった。

屯田郷土資料館の最大の見どころは、実

コレも  
見どころ

#### 篠路兵村から日清・日露戦争への出征も

屯田兵は開墾に従事する一方で、有事の時には出兵できるように軍事訓練も受けている。日清戦争では篠路兵村からも招集されたが、東京で終戦を迎えて無事に全員が帰郷。日露戦争では兵村から多くの若者が出征し、戦死者も多数出た。資料館では出征日記や兵村の家族が戦地へ出した便り、除隊記念の品など数々の兵役にまつわる資料も展示されている。



物が移築復元された屯田兵屋である。明治22年に山口県から移住した屯田兵が暮らしていた兵屋で、その後も住居や納屋として使用され残っていた。屯田地区において現存する唯一の兵屋を永久保存しようと、資料館の開館にあたり寄贈を受けて解体、移築復元が行われたという。和式木造切妻平屋の兵屋は、屋根の桁と下見板のほかは建設当時のものをそのまま使用。土間、炬を切った板の間、8畳と4.5畳の部屋、流し台と便所という実にこじんまりとした間取りだが、唯一の暖房である炉の周りで家族が肩寄せ合って過ごしていたのだろうと想像が膨らむ。

資料館2階にはたびたび石狩川の氾濫に見舞われてきた屯田の治水の歴史や、屯田兵移住の翌年から始まった学校教育、日清・日露戦争での屯田兵の出征記録などが紹介されている。



地域住民がレクリエーションなどに利用する地区センターの一角にある。



切り株を引き抜き開墾していった開拓者の過酷な生活を、迫力ある絵のパネルや道具類が語る。

住所：北区屯田5条6丁目3-21  
屯田地区センター1F  
電話：011-772-1811  
休館日：月曜、年末年始  
観覧時間：13:00~16:00  
アクセス：中央バス「屯田地区センター」停留所  
資料収蔵数：約1,330点  
開館年：昭和63年(1988)